

他とよりよくかかわることを通して
自分らしさを発揮できる子どもの育成 I



平成20年2月9日

鹿児島大学教育学部附属幼稚園

はじめに

鹿児島大学教育学部附属幼稚園
園長 今林 俊一

今日のわが国において指摘される知識基盤社会とは、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性が増していることを表しています。そのような社会にあって、課題を見出し解決する力、知識・技能の更新のための生涯にわたる学習、他者や社会、自然や環境と共に生きることなど、変化に対応するための能力、すなわち、生きる力が求められています。

そのため本園におきましても、平成16年度からは生きる力としての確かな学び、すなわち、学びの連続性を重視した保育研究・実践の充実に向けた研究を進めてまいりました。

その中で、幼稚園での子どもたちの学びを、子ども一人一人が遊びを通して自分なりに課題を発見し、試行錯誤しながら、生活に生かそうとする姿として捉え、最適な保育内容の設定について提案いたしました。

さらに、今年度から『他とよりよくかかわることを通して自分らしさを発揮できる子どもの育成』という研究テーマを掲げ、子どもたちを取り巻く「他」である「人」「もの」「自然」とのよりよいかかわりを通して子どもたちが自分らしさを発揮できるような保育を目指して研究をスタートしました。自分らしさを発揮できる子どもを育てるために、保育者としてどのようなかかわりを大切にしていけばよいのか、保育者の援助の在り方、環境構成の工夫・改善の面から研究を深めています。研究の1年次になる今年度は、「人」とのかかわりの中で自分らしさを発揮できる子どもの姿を追究しております。

今回の公開研究会では、これまでの保育内容を見直し、子どもたちが人とのかかわりの中で自分らしさを発揮する姿をより多く生み出す保育づくりについて御提案いたします。

まだまだ明らかにしなければならないことも多く、充分とは言えない実践研究ではありますが、先生方の忌憚のない御教示、御批正を賜り、今後の研究の糧にしていきたいと考えます。

また、本年度の公開研究会では、志学館大学准教授の山喜高秀先生に「心の子育て」の演題の御講演を賜りますことになっております。変化する環境の中で子どもをまなざす視点の在り方が問われる昨今において、大変意義深いことであり、心から感謝申し上げます。

最後になりましたが、御指導、御助言を賜りました鹿児島県教育委員会、鹿児島市教育委員会、鹿児島国際大学、鹿児島大学教育学部の諸先生方、また分科会で司会を務めていただいた先生方に深く御礼を申し上げます。本日の公開研究会で得られましたことを生かし、保育研究・実践をさらに深めてまいる所存ですので、今後とも一層の御指導と御協力をお願い申し上げます。

平成20年2月9日

他とよりよくかかわることを通して自分らしさを発揮できる子どもの育成 I

はじめに

I 研究テーマ

II 研究テーマの設定理由

- 1 時代の要請から 1
- 2 本園の実態から 2
- 3 これまでの研究から 3

III 研究の方向 4

- 1 研究の方法
- 2 研究計画

IV 研究の内容

1 研究テーマについて

- (1) 「他」とは 5
 - (ア) 「人」とは 5
 - (イ) 「もの」とは 6
 - (ウ) 「自然」とは 6
- (2) 「他とよりよくかかわる」とは 6
- (3) 「自分らしさ」とは 7
- (4) 年齢ごとの自分らしさを発揮する姿 9

2 研究の実際

- (1) 研究保育・保育研究から 13
- (2) 事例研究から 17
 - (ア) 4つの観点から見た事例
 - ① 同じクラスの友だちとのかかわり 18
 - ② 異年齢の友だちとのかかわり 26
 - ③ 保育者とのかかわり 31
 - ④ 地域の人とのかかわり 35
 - (イ) 一人の子どもについての継続的記録
 - ① だんだんと友だちとかかわるようになってきたA児 40
 - ② 自分の好きなことを見付けられるようになってきたB児 44

3 検証結果 48

V 研究の成果と課題 55

※ 参考資料 (実態調査結果) 58

おわりに